

社会－1 2（第6学年） 互いの考えを伝え合い、自分の考えを発展させる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 徳川家光と江戸幕府

2 単元の目標

我が国の歴史や文化遺産・人物の働きに関心を持ち、江戸幕府の始まりや参勤交代・鎖国などについて、年表や絵画資料、文書資料を活用して調べ、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことが分かるようにする。

3 小単元の評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

徳川家光の人物や業績に関心を持ち、武士による政治が安定した世の中の様子を意欲的に調べている。

【社会的な思考・判断・表現】

徳川家光の人物像と江戸幕府の政治を結び付けて学習問題を見いだして追究し、徳川家光が幕府の力を強めて言った様子について様々な立場から思考・判断したことを適切に表現している。

【観察・資料活用技能】

身分制度が確立し、武士による政治が安定したことについて、必要な情報を集めて読み取り手紙文などにまとめている。

【社会的事象についての知識・理解】

徳川家康や徳川家光の業績をもとにして、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことを理解している。

4 教材

歴史学習では、人物の業績の価値や意味について文化遺産を調べることを通して考え、それぞれの時代の様子をつかめるようにしたい。しかし、徳川家光の業績を中心に調べていくと、児童は「人々に対して厳しすぎる」等の印象をもつようになることが多い。そのため本事例では、導入で日光東照宮や祖父である家康とのエピソードを調べ、家光の人物への関心を深めていく。家光の業績を学習問題に即して調べていくと、次第に家光への評価が懐疑的になっていく。そこで、まとめでは江戸図屏風を読み取る活動を通して、児童がこれまで学習してきた見方や考え方を揺さぶることが有効だと考えた。さらに、家光への手紙を書く活動を通して、時代の様子を考えることができるようにした。

5 主な学習活動

(1) 小単元の指導計画（全7時間）

学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>○日光東照宮を調べ、歴史的価値や意味を考える。(1)</li> <li>○徳川家光と徳川家康のエピソードと年表から学習問題をつくり、学習計画を立てる。(1)</li> <li>○徳川家光による大名統制について調べる。(1)</li> <li>○徳川家光による農民統制について調べる。(1)</li> <li>○徳川家光による鎖国政策と外国とのかかわりについて調べる。(1)</li> <li>○学習問題についてまとめ、徳川家光の業績について考える。(1)</li> <li>○江戸図屏風を読み取り、徳川家光へ手紙を書き江戸時代の様子をつかむ。(1) <b>本時</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を生かして、根拠を基に予想させて、それらを併せて説明させる。</li> <li>・調べたことを整理してノートにまとめさせ、まとめに生かすことができるようにする。</li> <li>・資料の読み取りを基に社会的事象を具体的に挙げながら手紙にして表現させる。</li> </ul>

(2) 本時の学習（7/7）

①目標 江戸図屏風から江戸城下町の様子を読み取り、徳川家光に対する手紙を書くことを通して、江戸時代の様子と徳川家光の業績を関連付けて考えるようにする。

②展開

- 徳川家光の弟である徳川忠長との関係をエピソードから読み取る。
- 江戸時代は人々にとってどのような時代だったかを予想し、話し合う。
- 城下町の雰囲気の様子や人々がどのような気持ちで生活していたかを話し合う。
- 江戸図屏風を読み取る。
- 江戸時代の百姓や町人、武士の立場に身を置いて家光へ手紙を書き交流し合う。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第6学年の内容(1)では、「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする」、「オキリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること」と示されている。また、各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項として「社会的事象を多面的、総合的にとらえ公正に判断することができるようにする」ことが示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや社会的事象の意味についてより広い視野から考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明することができるようにする」ことが示されている。

本事例は、上記オの内容の中から「江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国」を中心に単元構成したものである。「家光が将軍であった頃の江戸の城下町の様子はどのようなものか」という問題解決の際に、これまでの学習を振り返りながら予想する活動を取り入れた。このことにより、考えたことを理由や根拠を基に表現することで、家光の業績をより広くとらえ直しながら再構成することにつながると考えた。また、「武士による政治が安定したこと」ととらえる学習活動を工夫することが大切である。ここでは、江戸図屏風を読み取り、これまでの学習をまとめることができるようにした。さらに、児童が百姓や町人、武士の中から選んで、その立場に身を置き、家光への手紙を書き発表し交流し合うことで、時代の様子をつかむことができる言語活動を展開した。

【言語活動の充実の工夫】 ーその時代に身を置いて考え表現するー

本時では以下の言語活動の充実を図った。

- これまでの学習を生かして、根拠をもとに予想させた。
- 資料の読み取りを基に、考えたことを手紙にして表現させた。

初めに家光の業績を振り返り、「江戸の城下町はどのような様子だろうか」と発問した。児童の多くは、「暗い」「沈んだ感じ」と否定的な印象をもって答えた。一方、少数だが「人々に厳しいけれど、安心して暮らしている」という肯定的に予想した児童もいた。このように、大まかに立場を明らかにした後に、「どうしてそのように考えるのか」と理由や根拠を求めた。すると、否定的にとらえた児童からは「人々の交流が少なく、活気がなく家光や幕府を恨んでいるのではないか」等の意見が出された。肯定的にとらえた児童は、「争いがなく平和になったから、確かに明るくはないかもしれないけれど、安心して暮らしている」と考えた。単純な感想だけでなく、その根拠を示しながら説明することの意義を理解するとともに、世の中が統一され争いがなくなったことで、命の危険性が少なくなったことは、確かに人々にとって安心につながるだろうと発展的な考えにつないでいった。また、「身分制度が確立したことで、政治も世の中も安定したのかもしれない」という意見も出された。

次に江戸図屏風の読み取りを基に、家光へ手紙を書く活動を行った。「江戸時代に身を置いて、家光に手紙を書いてみよう」と発問した。半数近い児童が百姓を選択していた。内容の多くは、家光への「感謝」と「お願い事」の2つだった。「感謝」の内容には、争いがなくなったことで命の危険性が少なくなり、以前より安心して暮らせるようになったことを表現するものが多かった。また、町人の立場から、参勤交代のおかげで人々や物の流通が盛んになりもうかっている、という内容もあった。こうした架空の設定に基づく言語活動を通じて、「幕府は大名統制のために参勤交代をしたのかもしれないけれど、結果的に世の中を盛り上げる効果もあったのではないか。」と、家光の業績と城下町の様子を関連付けて考えることができた。

